

台湾内政、日台関係をめぐる動向（2012年5月中旬-7月上旬）

馬英九總統二期目の就任、政府高官の収賄事件

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

5月上旬以降、世論の現政権への不満の高まりから、民進党を中心とした広範な抗議活動及びデモが実施された。かかる情勢の中で馬英九總統が5月20日に第13代の總統に就任した。5月下旬以後、政府はラクトパミン入り米国産牛肉の開放にかかる修正法案の可決を企図したが、立法院で野党の徹底抗戦に遭い可決されず、7月末に開催予定の臨時会で再び審議されることになった。7月上旬に林益世行政院秘書長が収賄容疑で逮捕される事件が発生し、クリーンな政府を標榜する馬政権に大きな打撃となった。民進党主席選挙が5人の候補によって争われ、蘇貞昌元行政院長が勝利し、主席に就任した。

5月末に駐日代表の異動があり、馮寄台氏が離任し、沈斯淳氏が新たに着任した。5月10日に交流協会台北事務所の新旧代表の離着任レセプションが催された。

1. 野党による政権批判の高まりと抗議活動

（1）馬總統への抗議活動

馬總統の二期目の總統就任式を前に、5月の台湾では現政権に対する抗議活動が民進党、台湾團結聯盟などを中心に繰り広げられた。

5月14日蔡英文前主席は、自身のフェイスブックで馬政権の施政を「独断的な政策決定を行い、国民の信用を失っている」と批判するとともに、内閣の全面改組などの要求を表明した。¹右に対して、總統府報道官は、馬總統は憲法に従って、「台湾を主体とした、人民に有利になる」を原則とした施政を行っており、蔡前主席の指摘は当たらないと交わすとともに、「馬總統は与野党首脳会談の開催を望んでいる」と民進党に対話を呼びかけた。²国民党は殷瑋報道官が、「蔡前主席の公開書簡は、表面上は馬總統への批判であるが、実際には民進党内の権力闘争の延長であり、これらの発言は蘇元院長との政治的駆け引きの意味合いではないか」とその発言の動機に疑義を呈した。³

5月18日、『聯合報』が馬總統の満足度に関する世論調査の結果を公表した。⁴表1が示すように、馬總統に対する満足度は2008年5月の調査以降最低の23%を記録し、不満足も66%に達した。また将来の展望についても、回答者の56%が「馬總統が引き続き台湾を率いていくことに自信がない」と回答するなど、同紙は馬總統が空前の執政危機に直面していると指摘した。右結果に対し、總統府報道官は「馬總統はあらゆる世論調査の結果に対して注意を払い、参考にしており、必ず民衆の声と不満には謙虚に耳を傾ける」とのコメントを出した。

『聯合報』という国民党寄りの新聞の世論調査ですら馬總統の施政に対し厳しい結果が出たことで、当日夜の複数のテレビ局の政治討論番組が「あの『聯合報』ですら、馬の執政危機を率直に指摘した」等の発言が多々聞かれた。

馬總統の二期目の總統就任日前日に、民進党の主導による大規模な抗議デモ活動が台北市内で行われた。⁵民進党報道官は15万人がデモに参加し

表1 馬總統の満足度の変化の変遷

調査年月	満足	不満
2008年5月20日 總統就任	66%	10%
2009年5月18日 總統就任1年	52%	33%
2009年8月18日 八八水害直後	29%	54%
2010年5月17日 總統就任2年	39%	43%
2011年5月18日 總統就任3年	45%	41%
2012年5月17日 總統就任4年	23%	66%

参考資料：「聯合報民調 520 前夕馬聲望新低 23%」『聯合報』（2012年5月18日）頁1。

たと発表した。⁶抗議者の主張は「日子歹過、總統踹共」であったが、筆者が同デモを目撃した際には「政府無能」、「馬英九下台！（辞任しろ）」といったスローガンが目撃できた。

抗議活動は、19日午後4時から台北市内の3か所から、陳菊代理主席が率いる「生存を必要とするチーム（要生存大隊）」、蔡前主席が率いる「公平を必要とするチーム（要公平大隊）」、姚嘉文前孝試院長ら独立派が率いる「安全を必要とするチーム（要安全大隊）」がそれぞれ市内を行進し、民進党中央党部近くの公園に集合し、夜9時まで抗議集会が行われた。同抗議活動には、他に黄昆輝台湾團結聯盟主席、元行政院長の謝長廷、游錫堃氏などが出席した。陳代理主席は、「總統選挙から4カ月が経つが、この間台湾社会は20数年来経験したことの無い空前の困難に陥っている」との認識を示し、「国民は馬總統を国家指導者として選択したのであるから、台湾住民が直面する苦しみに関して馬總統は責任を負うべきだと」と批判した。⁷

（2）馬總統による總統就任前日の記者会見

馬總統は總統就任式の前日5月19日の民進党の抗議デモが始まる同時刻の午後4時から急遽記者会見を開催し、最近の世論の政府に対する批判に関して説明した。⁸馬總統は記者会見で自ら、「過去四年間の施政に関して4項目について足りない部分があった」として、「雇用機会」、「平均所得の増加」、「貧富の差の格差縮小」、「政策にかか

る意思疎通と説明不足」を挙げた。これらのうち、「前三項目は、2008年に政権を引き継いだ時代に比べると若干の改善を達成したが、満足のいく数字は残せなかった」との見方を示した。また最近政府が決定したガソリン、電気価格の値上げなどの諸政策に対して、国民が不便さと不安を感じていることに対し、「申し訳ない」と感じており、「国民に対して説明が足りなかった」と感じていると述べた。その一方で、「改革の路は永遠に上り坂であり、歩みにくいものであるが、台湾の未来と前途のために改革を止めることはできない」と強調し、国民に理解を求めた。

總統就任式前日の「謝罪会見」ともいえる、記者会見を開催した意図は、「一期目の反省は今日を最後にけじめをつけ、新たな気持ちで二期目の施政を推進しよう」というものだったかもしれないが、台湾住民にその気持ちが届いたかはわからない。

2. 馬總統の就任演説と当日の抗議活動

今回の總統就任式は、馬總統の「経費削減、簡素化」をスローガンとした原則の下に今まで慣例として行なわれた、祝賀式典、国賓を招いての豪華な晩餐会、夜の花火大会などは行なわれなかった。（一部は規模縮小で開催）就任演説は、朝9時から總統府内で催される就任式典の際に行なわれた。

(1) 総統就任演説

台湾総統の就任演説は、今後4年間の施政方針が含まれるため、大きく注目されるが、今回は馬政権の二期目ということに加え、支持率の低迷もあり、国際社会がその行方を最も注目する兩岸関係においては、大胆な政策を提出する可能性は低いと予測されていた。兩岸関係に関しては、本誌6月号の松本准教授の分析で目新しい内容は示されなかったと指摘されたように、⁹同演説の重点は内政問題に割かれた。

内政に関しては、「経済成長のエネルギーとなる自由化の推進と産業構造革新の強化」、「雇用の創出と、社会正義の実行」、「グリーンエネルギーの環境づくり」、「文化的国力の構築」、「人材の積極的な育成と招聘」の五項目を国家発展のための大きな支柱と位置づけ、台湾の国際的な競争力を全体的に高め、台湾を今後4年間で徹底的に生まれ変わらせ、幸福な社会へ邁進させると強調した。¹⁰

国家の安全保障に関しては、「兩岸関係の和解による台湾海峡の平和の実現」、「活路外交による国際空間の開拓と国際貢献の増加」、「国防力の強化により外来の脅威を抑止する」の鉄のトライアングル（鉄三角）を以って台湾の安全を護り、バランスある発展を目指すと述べた。2008年の就任演説では直接の言及が無かった日本については、米国、EUとともに特に取り上げられ、「札幌分処の開設、航空路線の増便、文化交流、投資などの領域で重要な成果があり、（断交から）40年間で最も友好的な特別パートナーシップ関係を築いた」と評価した。

同演説については、兩岸関係について「ひとつの中華民国、二つの地区」を強調した点について、政治大学教授で馬政権下で大陸委員会副主任委員を務めた趙建民氏は、「兩岸政策の安定性を際立てるとともに、国内改革と国際空間、兩岸関係に配慮した内容である」と評価した。¹¹一方、馬総

統に批判的な李登輝元総統は、「馬は歴史を歪曲している、ひとつの中国を承認したことは自身の矮小化であり、反民主的な、権威主義の復活を主張しており、台湾の主権の流失を招いている」と厳しく批判した。¹²

今回の就任演説は、サプライズも無く妥当な内容であったが、馬総統の低迷する満足度（支持率）を考慮すれば、兩岸関係等で平和協定等のイシューを提出するような余地は全く無く、経済振興を中心とした民生問題を訴えざるを得なかったと言える。

(2) 総統就任当日の抗議活動

総統就任式の当日、台湾各地は雨模様であったが、台湾各紙は馬政権に対する抗議活動が全島規模で実施されたことを報じた。¹³

野党三党はそれぞれ、馬政権を批判する声明を発表した。民進党は、陳菊代理主席が党幹部を率いて記者会見を開き、「馬総統の演説は4年間の失政に対して謝罪の言葉がなく、誤った政策を推進している陳冲内閣の全面的な改造と民間団体が推進している瘦肉精入り米国産牛肉の輸入開放政策を支持する国民党籍立法委員の罷免活動を支持する」として、馬政権と全面対決する姿勢を強調した。¹⁴台湾団結聯盟は、抗議デモを実施するとともに馬政権の政策を支持する直轄市長（台北、新北、台中）、国民党籍立法委員及び馬総統本人の罷免を求める連署活動を行う予定があることを表明した。¹⁵親民党は、表現こそソフトであったが、「馬総統は民意に耳を傾け、国民生活の角度から政策を決定するべきだ」と呼びかけ、必要と感じた時には内閣不信任案、馬総統の罷免案に賛成票を投じることもありうることを強調した。¹⁶

1月の選挙で再選を果たした馬総統だが、当選から4ヶ月という短期間に支持率、満足度が低下し、与野党間の対立は非常に高まり、今後4年間の政局も2000年以降の厳しい対立が引き続き展

開することは必至の情勢となった。なお一部の野党が主張している、国民党立法委員、直轄市長、総統の罷免案が成功する可能性は現時点では不可能に近いが、感情的な軋轢を有した非理性的な与野党間の対立を和解し、理性的な対話を行える雰囲気醸成は、馬総統の手腕にかかっている。正に「馬総統の施政は謝罪の中で一期目の任期を終え、抗議の中で始まる」試練の幕開けとなった。

3. ラクトパミン入り米国産牛肉の輸入開放問題を巡る与野党の攻防

総統就任式後の政局は、立法院の会期が終了する前に国民党が推進する米国産牛肉の輸入開放にかかる法案修正の動きが加速した。5月29日、国民党籍立法委員で右問題を担当している林鴻池党政策会執行長、徐耀昌党団書記長、呉育昇党団主席副書記長らが米台関係協会（AIT）を訪問し、右問題に関し米側と意見交換をした。林執行長は会談後にマスコミのインタビューを受け、「スタントン AIT 台北事務所処長は、米国産牛肉問題が解決すれば、米台間の TIFA（投資枠組み協定）の交渉を再開することが見込まれ、台湾住民の米国訪問にかかるビザなし渡航に関する進捗も加速するであろう」と説明した。¹⁷同行した林郁芳立法委員は、「総統就任式に出席した米国の祝賀団の関係者と会見した際にも、スタントン処長と同様の話をしており、今回の発言は米政府の承認を得ているはずである」として同問題の早期解決の重要性を強調した。¹⁸

報道の翌日には、AIT 台北事務所の報道官が、初めて正式に「牛肉問題は米台貿易と TIFA の唯一の障害である。米国は迅速に TIFA 交渉の再開を望む」と説明した。¹⁹一方、米側から間接的に批判された民進党は、潘孟安党団幹事長が、「民進党は反米、反米牛でもなく、ラクトパミンの含まれる食肉に反対している」と強調するとともに、

「EU はラクトパミンの含まれない米国産牛肉を輸入しているが、台湾も右に倣えば良い」と従来の立場を示した。²⁰6月3日には、ロシアの国際会議に出席していた施顔祥経済部長がロナルド・カーク米通商代表部代表と非公式会談を行い、「牛肉問題を解決後に TIFA の再交渉を促す」との回答を得たと報じられるなど。牛肉問題が米台関係の発展の障害になっているという論調が紙面を賑わすようになった。²¹

6月7日、国民党中央は党団大会を開催し、同党の陳鎮湘立法委員が提案した米国産牛肉の輸入開放にかかる「食品衛生管理法部分条文修正草案」を一致して支持することを採択し、採決時に同草案に理由もなく欠席したり、反対票を投じた場合は罰金のほか、党規違反として処分に課すことを決定した。²²同大会に出席した馬主席は、「今法案に賛成票を投じることは、馬英九や国民党を支持するだけでなく、台湾の未来を支持し、台湾を自由で開放された方向へ導くものである」と強調し支持を訴えた。²³右に対し、民進党は、林俊憲報道官が、「台湾社会は瘦肉精入り牛肉の輸入開放に反対しており、馬総統は未だに台湾人を説得できていない状況下で、輸入開放を強行しようとしている」と批判した。²⁴翌8日、蘇主席は党幹部を率いて立法院を訪問し、王金平院長を表敬訪問後、中央党部は、瘦肉精入りの牛肉開放に反対する立場を支持すると強調し、馬総統の姿勢を批判した。²⁵

しかしながら、法案採決という決戦を直前に控えた6月9日から11日にかけて中南部襲った豪雨は馬総統の思惑を狂わせることとなった。国民党は当初、12日に関連法案の採決を目指したが、民進党は前日の11日から立法院長が議事進行を行なう「主席台」を占拠し、議場に寝泊りし「主席台」を護る行為に出て議事進行を完全に麻痺させた。国民党内には「夜襲」をかけてでも力づくで主席台を奪回し、開会を強行し法案の審議と採

決を実行しようという「主戦論」もあったが、11-12日にかけて中南部の多くの県市が豪雨のため学校は休校、役所も休所になったことで、中央政府は災害復旧を優先せざるをえなくなり、与野党の協議も不調に終わったことで、政府高官からは、「立法化ができない間は、先に行政命令による米牛肉開放の実施の可能性も排除すべきではない」との意見も出されるようになった。²⁶かかる状況の中で13日、民進党中央は党報道官が「災害復旧を超党派で行なうために立法院は直ぐに休会すべきである」との呼びかけを行なったが、国民党の拒絶に遭った。²⁷一方、国民党は民進党に対し、「民進党こそ、立法委員は自身の選挙区に戻り復旧の手助けをすべきなのに、非理性的な手段で立法院の議事進行を麻痺させ、対立を作り出している」として、会議ボイコットの態度を止めるよう呼びかけるなど、²⁸無益な言い争いが続いた。

結局、会期最後の週は、民進党が「主席台」を占拠した形での対峙が続き、その間も議会再開のため与野党間で10回以上に協議、交渉が続けられたが、結論はなく15日に休会となった。

『自由時報』紙は、会期中に馬総統が最優先で取り組んだ米牛肉問題を解決できなかったことで、党内関係者の発言「馬のレイムダックの兆候が浮かび上がった」を引用し、馬の党内の指導力に翳りが見え始めたと論評した。²⁹『中国時報』紙は、民進党は今回の「焦土作戦」は、短期的には勝利したかもしれないが、他の重要な法案はほとんど審議されなかったことで、台湾社会の信頼を得られたかどうかは疑わしいと論じた。³⁰

休会後の臨時会開催の戦略を模索するため、馬総統は17日に総統府、行政院、党幹部によるハイレベル会議を開催し、「理性的な態度で米牛肉の開放問題に向き合おう」と呼びかけるとともに、右修正法案が可決するまでは、行政命令による米牛肉の開放措置は採らないと言明し、あくまで立法化を推進する姿勢を強調した。³¹しかしなが

ら、またしても「天が野党に見方をした」形となった。19-20日には再び台風が台湾を襲い、中南部を中心に学校休校、役所休所となり、臨時会開催にかかる与野党交渉を実施する雰囲気は全く無くなり、最終的には26日に開催された与野党協議で、7月24日に審議内容につき協議する「談話会」を開催、翌25日から3日間を臨時会の開催日とすることに決定した。³²しかし、米牛肉開放の修正法案に関する与野党の対立は解けておらず、後述する政府高官の収賄事件の影響もあり、臨時会でスムーズに審議、採決に持ち込めるかは不透明である。

4. 行政院秘書長の収賄事件

6月28日、台湾各紙は政治から芸能ニュースまで幅広く報じる写真週刊誌「壹週刊」の記事を引用し、林益世行政院秘書長³³が立法委員時代の2010年に大手国営企業の中国鋼鉄の子会社との契約締結の口利き(関説)をした見返りに業者(「地勇公司」経営者の陳啓祥)から、6300万元を獲得した上、今年の2月25日に新たな契約を結ぶべく、林秘書長は自ら陳啓祥に対して、再契約のため8300万元を用意するよう要求したと報じた。³⁴陳啓祥によると、今回のビジネスは多額の賄賂を渡してまで契約するほどの利益が見込めないことから、賄賂の支払いを拒んだところ、林氏にビジネスを妨害され、自身の会社が倒産の危機に瀕するようになったことで暴露したと報じられた。林秘書長は右報道後、陳行政院長、馬総統に報告した上で、記者会見を開き、『壹週刊』の報道は事実ではない、クリーンであることは自分が最も重視することであると強調し、右雑誌を告訴する予定であると表明した。³⁵また馬総統は、林秘書長に対し、「クリーンであることは公務員の最も基本的な道徳標準であり、グレーゾーンは許されない」として、世論にしっかり説明するよう促した。

林秘書長は、元省議会議員の父を持つ政治家族の出身で、「本省人」、「南部」、「若さ」（1968年生まれ）という国民党が必要な特質を有していたことから、早くから党内で次世代を代表する人物として大切に育成されてきた。30歳という若さで旧高雄県選挙区から立法委員に当選後、同委員を4期務めたほか、馬総統が党主席時代の2006年4月から2008年1月まで党副主席に抜擢されたほか、その後も党青年団総団長、政策委員会執行長などの要職を歴任し、「馬の側近」とは言えないまでも馬総統が重用してきた人物の一人である。

民進党は右報道を受けて、林報道官が検察に対して「迅速な調査を実施し、馬総統も政治と道徳上の責任を負うべきである」と指摘した。³⁶

翌28日、新聞各紙が林秘書長と陳啓祥が会っている写真を掲載後、林秘書長は再度記者会見を開き、「陳啓祥とは過去に会ったことはあるが、賄賂は受け取っていない」と強調し、週刊誌と陳啓祥を告訴すると表明した。³⁷しかしながら、総統府、行政院は林秘書長と距離を置き、静観するようになったことで、秘書長辞任は免れないとの見方が大勢を占めるようになった。³⁸

29日には、民進党の趙天麟立法委員が、「林秘書長と陳啓祥が賄賂の金額について相談している録音媒体を入手し、自身も聞いたところ、8300万円を要求する内容が確認できた」と公表した。³⁹追い詰められた形となった林秘書長は、同日、事態の混乱の責任を取り秘書長を辞任したが、「今回の事件は自分への政治的な抹殺工作である」とし、民進党側に対して、「自身の収賄を裏付けるような証拠があるのなら、証拠を特捜部に渡すべきだ」と強弁し、その夜放映のテレビ政治討論番組に電話をかけ弁明し、視聴者に潔白を訴えた。⁴⁰

翌30日、検察特捜チームは、林秘書長の収賄を暴露した陳啓祥を勾引し、事情聴取を行った。その際、陳啓祥は林氏と収賄の相談をしている内容が録音された媒体を提出した結果、特捜チームは

陳啓祥を収賄容疑の被告として、身柄を拘束した。⁴¹7月1日には、検察特捜チームは、ついに林前秘書長を被告とて召喚、事情聴取を行い、同人の台北の自宅と高雄の実家及び関連企業を捜索した。⁴²1日午後4時から約12時間にわたり、聴取を受けた林前秘書長は、検察側が突きつけた証拠資料の前に自身の収賄を認め、逮捕された。⁴³

林前秘書長の逮捕を受けて、馬総統は「大変遺憾で申し訳ない、執政チームは今事件を教訓として、公職者の任用については慎重であるべきだ」と語った。⁴⁴国民党寄り論調の『聯合報』は、林前秘書長は馬総統自身が抜擢した人物であるところ、今回の事件で馬総統の威信に傷がついたのは明白であり、政務全体の推進に不利になるところ、秘書長の後任人事も含め行政院の人事任用の権力を行政院長に渡すべきだと主張した。⁴⁵また国民党の蔡正元立法委員は、「馬総統が重用する人物は『若手』、『学者』に偏る傾向があるが、人材登用は慎重になるべき」と指摘した。同じく同党の陳学聖立法委員は、「今回の事件は国民党の南部の選挙に大きな打撃であり、2014年の地方選挙、甚だしくは2016年の総統選挙にまでダメージを与えかねない事態だ」と警笛を鳴らした。⁴⁶

民進党は馬総統の発言に対し、林報道官が「林前秘書長は陳啓祥に対して『必要経費』として金銭を要求していたが、今回の事件の背後には共犯構造があるのではないか?」、「馬政権の中に他に何人の林益世がいるのか?」と疑義を呈し、馬総統は「公に謝罪し、政治道徳的な責任を負うべきである」と指摘した。⁴⁷また同党の王報道官は、馬総統の「遺憾である」との発言は、「あたかも評論家と同じような他人事のような発言であり、執政チームの汚職問題に対して徹底的に調査を命じる姿勢を見せるべきだ」と批判した。⁴⁸

林氏の逮捕に対し国民党は、3日午後には考核紀律委員会を開催し、林前秘書長の収賄事案につき議論した結果、「林同志は長期にわたり党が育成

表2 馬總統のパフォーマンスに対する満足度調査

	満足	不満	意見なし
20111227 (選挙半月前)	40	45	15
20120209 (陳冲内閣)	40	37	23
20120313 (米国牛肉)	28	50	22
20120419 (アフリカ訪問)	22	61	17
20120515 (総統二期目就任)	20	64	16
20120703 (林益世汚職)	15	69	16

資料元：「林益世事件後馬總統滿意度民調」『TVBS』（2012年7月3日）

http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201207/39g77tofel.pdf

し、要職に就く身でありながら、大きな過ちを犯し、党の名誉を傷つけたことにより、党の規定に従い除籍処分に付すことを決定した」と表明した。⁴⁹また4日の中央常務委員会で、馬主席は、「今事件に関係する人数、範囲、レベルが如何なるものであっても徹底的に捜査を行う事を要求する」とともに、「国民党はあらゆる力を用いて、清廉の価値を護る」と強調した。⁵⁰

こうした中、『TVBS』テレビが林前秘書長の逮捕直後（7月2-3日）に実施した馬總統に対する満足度調査では、台湾住民の馬總統に対する「率直」な反応が示された。馬總統のパフォーマンスに対する「満足」は、5月の調査より、5ポイント下落し15%に、「不満」も5ポイント上昇し69%となり、ともに過去最低を記録し、馬政権のクリーンというイメージは大きなダメージを受けたと分析した。⁵¹

民進党は4日、中央常務委員会を開催し、政局の安定、国民の信頼回復のために、現政府は以下の事項に取り組むべき問題として①総統は今事件に対し他人事のような態度をとるべきでなく、正式に全国民に謝罪すべきである。②憲政体制を尊重し、全面的内閣の改造を行い、国民の信頼を回復させよ。③汚職事件は徹底的に調査し、国民に責任ある説明をすべきである。④国営事業は全面的な整理整頓を断行し、構造的問題を除去すべきである。⑤国民党の党資産はゼロに帰し、黒金体質に別れを告げ、民主政治に回帰すべきであるの

五項目を挙げた。⁵²馬總統の満足度が低迷することに対し、蘇主席はマスコミから質問を受けた際に、「最近の政局の混乱と国民の生活の苦しみ、さらには政府高官の収賄事件を考えれば、馬總統の満足度が最低を記録したのも意外ではない」と指摘した。⁵³

政府は今回のスキャンダル後の事後対応処置として、法務部廉政署が7月7日に「清廉（廉政）座談会」を開催し、馬總統、呉副總統、陳行政院長のほか各部門の首長及び幹部が出席し、引き締めを図った。馬總統は同座談会の挨拶で「林前秘書長の事件は大変心が痛むものであり、政府の汚職防止及び汚職追放のメカニズムを再検討し、国民の信頼を取り戻さなければならない」と強調した。⁵⁴

林秘書長の汚職事件は、支持率が低迷する馬政権にとって、米牛肉問題で議会の審議が膠着したプロセスの中で、降って湧いた災難に等しく、政権運営はより厳しくなった。また、馬總統自身が抜擢した人物の汚職は、馬自身の人事上の責任だけでなく馬自身のクリーンなイメージが大きく傷つき、党内の影響力も急激に弱まる可能性があり、主席辞任の声が党内で公に高まるようになれば、予想以上に早い段階で馬がレームダック化することも現実性を帯びてくるようになるかもしれない。

5. 民進党主席選挙は蘇貞昌氏が勝利

(1) 候補者によるテレビ討論会

4月中旬の候補者の登記から5月27日の党员直接選挙までの間、高雄、台中、台北の三都市で候補者によるテレビ討論会が実施された。4月29日の第一回討論会は高雄市で開催された。候補の5名（蘇貞昌元行政院長、許信良元主席、蔡同榮前立法委員、蘇煥智前台南県長、吳榮義元行政院副院長）はそれぞれ自身の得意とする分野で主張を展開したが、5人とも一致した点は、「2014年の地方選挙（直轄市を含む県市長、县市議選挙）に勝利してこそ、将来政権を奪回するための基礎を固めることができる」との主張であった。⁵⁵今選挙は世論調査でトップを走る蘇貞昌氏と他候補4名の論争が如何にして展開されるかに関心がもたれたが、第一回目の討論会では「反蘇貞昌包圍網」は形成されず、各候補者から目新しい主張も見られず、筆者を含む激しい論戦に期待した者にとっては退屈な、静かな討論会であった。⁵⁶

5月6日に台中で開催された第二回目の討論会では、有力候補の蘇元院長が他の4人の候補から集中攻撃を受ける一幕があった。特に許元主席は、「蘇元院長は兩岸政策に関して意義と価値のある発言がないが、兩岸関係への理解が乏しいか、批判を受けるのを恐れているのではないか」と指摘した。また蔡前委員は、「蘇元院長はしばしば党内の団結を主張しているが、自身は2010年の直轄市長選挙で党内の調整が整う前に台北市長選

への出馬を表明し、党内を混乱させた」と批判するなど蘇元院長に対する攻撃が目立った。⁵⁷

5月13日に台北市で開催された第三回討論会は、再び許元主席が蘇元院長を厳しく批判し、4人の候補による蘇元主席に対する集中攻撃が再現されたが、蘇氏は終始党内の団結を呼びかける姿勢を堅持した。⁵⁸また、許元主席が、2016年の総統選挙への出馬への意向に関して蘇元院長の意向を追及した。許元主席を含む他の4候補には総統選出馬の意思はないと明言し、蔡英文への支持を暗示したのに対し、一方で蘇元院長は、「2016年の総統選挙の事ばかり議論するのは、有権者に対して失礼である。党主席の任期は2年であり、まずは2014年の地方選挙で勝利してこそ、2016年の選挙を語る事ができる」と最後まで自身の動向については明言しなかった。⁵⁹

(2) 主席選挙の結果

5月27日に投開票が行われた党主席選挙は蘇元院長が、過半数を超える得票率で圧勝した。⁶⁰2位には最も若く、将来性のある蘇煥智が入った。一方選挙戦序盤から、次期総統選挙の候補として蔡英文を推し、蘇貞昌批判を展開した許信良元主席は得票率2%台の最下位に終わった。蘇嘉全秘書長は、同選挙を総括し、「今回の選挙の投票率は68.62%にも達し党员の党の発展に対する関心の高さが示された」と評価した。⁶¹選挙に勝利した蘇元院長は、「この歴史的な時に民進党は党創設時の古参党员に党主席のポストを与えた

表3 民進党主席選挙の結果

選挙人番号	候補者	得票数	得票率
1	蔡同榮	12,497	11.28%
2	蘇煥智	23,281	21.02%
3	許信良	2,763	2.49%
4	吳榮義	16,315	14.73%
5	蘇貞昌	55,894	50.47%

資料元：民主進歩党ホームページ「民主進歩黨第十四屆黨主席選舉結果新聞稿」（2012年5月27日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6132

が、自分は重大な責任を深く感じており、自分は党主席の職務を全力で全うする」として、改めて党内の団結を求めた。⁶²

今選挙では、党主席選挙とともに各県市の主任委員選挙も同時に実施され、「蔡英文系」の候補が二大都市の台北市と新北市で勝利し、蔡英文が蘇主席をけん制する情勢となったとの分析も見られた。⁶³また、蘇主席が掲げた「党内団結」は、民進党にとって古くて新しい永遠の課題であるが、蘇主席を支持する党内有力派閥の新潮流派が、蔡英文やその他の有力者に党内の権力を分かち合うか否かが党内団結の鍵であるとの分析も見られた。⁶⁴

馬総統が支持率の低迷にあえぐ中、民進党は2014年の地方選挙、16年の国政選挙での勝利を見据えた戦略を練ることになるが、党内改革、中国政策路線など課題は山積みであり、蘇貞昌が如何に党内事務を取り仕切り、変化を期待する台湾の有権者に応えられるかは注目すべきであろう。

6. 日台要人の往来関連

(1) 馬総統と日本国会議員の会見

5月8日、馬総統は「八田與一技師逝去70周年追悼記念会」に出席するため訪台した藤井孝男日華議員懇談会幹事長ら一行と会見した。⁶⁵馬総統は、「日本の台湾統治時代の評価については、様々な見方があるが、八田氏の台湾に対する貢献は誰もが認めるところであり、自分は総統就任後、八田與一記念公園の建設を積極的に推進した」と述べた。また、馬総統は、「日華議員懇談会が日台関係を増進するのに重要な役割を果たしてきた」と賞賛するとともに、賓客の皆様にも引き続き新任の沈斯淳駐日代表を支援していただきたい」と述べるとともに、「沈代表と廖了以亜東関係協会会長の協力の下に日台関係が発展することを信じている」と述べているところがあった。

(2) 馬総統と平沼赳夫日華議員懇談会会長の会見

5月20日、馬総統は、総統就任式に出席するために訪台した平沼赳夫日華懇会長ら21名の衆参両議員と会見した。⁶⁶馬総統は平沼会長らに訪台の歓迎の意を表明するとともに、日台関係は平沼会長ら同会メンバーの努力の下に幅広い協力関係が推進され、多方面で重要な進展があり、断交から40年目にして最も良い「日台特別パートナーシップ」になったと評価し、特に「海外美術品等公開促進法」が日本の国会で制定されたことは日台文化交流が更に前進するものとなったと評価した。

(3) 王金平立法院長らの東北訪問

王金平立法院長を団長とする訪日団は7月1日から7日までの間、日本を訪問し、東京のほか、東北大震災の被災地である宮城、福島両県を視察した。全日程を終えた一行は、6日に東京で記者会見を開催し、王院長は今回の訪日の主な目的は、「東北大震災の被災地の復興状況の視察」、「日本の政党、行政、立法界との交流」、「日本各界との協力を通じた日台産業協力の強化」の三点であったと述べた。⁶⁷

王院長は被災地の視察では、「台湾からの義捐金が適切に使われていることが確認されたと述べた。日本各界との交流では、衛藤衆議院副議長、尾辻参議院副議長、谷垣自民党総裁、前原民主党政策調査会長をそれぞれ表敬訪問したと説明した。日台産業協力に関しては、中台がECFAを締結した後、日台双方は右枠組みを利用して共に中国へ進出することができるとの期待を述べた。

7. 台北駐日経済文化代表処代表の離着任

5月29日、馮寄台駐日代表は、3年8ヶ月の勤務を終え帰国の途に着いた。空港では、日本在住の台湾メディアのインタビューに応じ、「外交官

の生涯において、日本滞在中が最も充実したすばらしい時期であった。帰国後は一人の親日派、知日派として貢献していきたい」と述べた。⁶⁸

翌30日、沈斯淳駐日代表が着任した。空港では、駐日代表処職員、今井正交流協会理事長、華僑関係者などの出迎えを受けた他、メディアの質問に対し、「良好な日台関係を引き続き進展させたい」と抱負を語った。⁶⁹6月1日、沈代表は交流協会本部を訪問し、大橋光夫会長、今井正理事長らに新任の挨拶を行った。⁷⁰沈代表は、抱負として「台日関係の発展のために尽力していきたい」と述べた。また大橋会長は、「昨年会長に就任後、3回訪台したが、その際沈代表とは毎回お会いしており、古い友人の歓迎である」と述べ歓迎の意を表明した。

8. 交流協会台北事務所新旧代表の離任、着任レセプション

5月10日、交流協会台北事務所は、今井前代表の離任及び樽井澄夫新代表の着任レセプションを台北市内のホテルで開催した。⁷¹樽井新代表は挨拶で「台湾のことは非常に好きであり、台北事務所代表という仕事に、大きな責任を感じているが、日台関係を全力で発展させていく所存である」と述べた。すでに、日本へ帰国し交流協会理事長に就任した今井前代表は事情により欠席となったが、挨拶文が代読された。

同レセプションには、台湾からは連戦元副総統、許水徳元考試院長、姚嘉文元考試院長、廖了以亜東関係協会秘書長らが出席した。

9. 樽井交流協会台北事務所代表の総統、副総統との会見

(1) 馬総統との会見

樽井代表は5月16日に馬総統と会見した。⁷²馬総統は樽井代表の台湾着任に対し歓迎の意を表するとともに、「『日台特別パートナーシップ』は、

引き続き安定した発展をしており、自分が総統就任後、日台双方は『ワーキングホリデー』、『日台投資協議』など実務面での交流にかかる覚書に調印したが、これらの日台関係の進展はこの40年間見られなかった現象であり、日台関係にとって非常に有益なものになっている」と指摘した。

また馬総統から、「台湾の新駐日代表の沈代表がまもなく着任するが、将来、樽井代表と沈代表が協力して、日台間の更なる経済交流を切り開くことを期待する」と述べるところがあった。

(2) 蕭萬長副総統との会見

樽井代表は、5月17日に蕭萬長副総統と会見した。⁷³蕭副総統は、「近年、日本、台湾及び国際社会の環境は大きな変化を遂げており、そのような環境の中で緊密な日台関係の結びつきを、いかにして引き続き促進していくかを、日台双方は慎重に考察する必要がある」と指摘した。また、「日台双方が引き続き交流を深め、産官学界の協力を推進していくことは、日台両国民にとって有益であるところ、双方が更に交流を強化することを期待する」と述べられた。

10. 2011年度台湾における世論調査

6月22日、交流協会台北事務所は「2011年度台湾における対日意識調査」の結果を公表した。同調査は、2008年、2009年にも実施され今回が三回目の調査となった。⁷⁴詳細な調査結果は交流協会のホームページに譲り、要点を紹介すると、「一番好きな国・地域」の設問では日本は41%を占め1位の座を守ったが、前回調査と比べると12ポイントダウンした。とはいえ、2位の中国大陸及び米国の8%を大きく引き離し独走状態の1位となっている。「今後親しくすべき国・地域」の設問では、前回同様、中国が37%と1位の座を死守し、日本は2位(29%)につけたが、前回との差は2ポイントから8ポイントに広がった。「親しみ度」

に関しては、広義の「親しみを感じるが」72%を占め「親しみを感じない」の13%を大きく上回った。「日台関係の現状」については、「良い」が53%を占め、「どちらともいえない」の45%、「悪い」は僅か2%であった。これらの結果は台湾社会の対日好感度を明白に示す結果となった。

台湾各紙も概ね、調査結果を好意的に報道したが、『中国時報』は、「台湾人が好きな国・地域」は日本であるが、「親しくすべき国・地域」では中国大陸である点を強調して報じたが、この背景に

は、中台間の経済相互依存関係が急速に深まる一方で、依然として武力衝突の可能性も残している中国大陸との関係が台湾人は最も重要であるという冷静な姿勢を示したものとも理解できた。また、アンケートの詳細版で触れられた「日台間における心配な案件」の設問について、「日中関係」と「漁業問題」が3割を超えたのに対し、「尖閣諸島問題」がほとんど台湾人には心配されていないことに対し、意外であったと説明するところがあった。⁷⁵

- 1 「蔡英文痛批馬 籲全面改組內閣」『聯合報』（2012年5月15日）聯4。
- 2 「蔡英文籲改組內閣 府盼朝野會談」『中国時報』（2012年5月15日）聯4。
- 3 中国国民党ホームページ「國民黨：蔡英文矛盾、抹黑 意在權門？」（2012年5月14日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7073>
- 4 「聯合報民調 520前夕馬聲望新低23%」『聯合報』（2012年5月18日）頁1。
- 5 「日子歹過百姓怒吼 15萬人冒雨嗆馬」『自由時報』（2012年5月20日）頁1。
- 6 警察の推計では、5万5千人としている。
- 7 民主進歩党ホームページ「519遊行晚會，陳菊致詞全文」（2012年5月19日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6125
- 8 總統府ホームページ「總統針對近日相關新聞議題召開記者會」（2012年5月19日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27195&rmid=514>
- 9 松本充豊「ボアオ・アジア・フォーラムの開催と馬英九總統の就任」『交流』（2012年6月号）頁42。
- 10 總統府ホームページ「中華民國第13任總統、副總統宣誓就職典禮」（2012年年05月20日）<http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27200&rmid=514>
- 11 「學者：馬凸顯兩岸政策穩定性」『聯合報』（2012年5月21日）頁2。
- 12 「馬：憲法定位一中威權復辟」『自由時報』（2012年5月21日）頁1。
- 13 「紫怒圍馬 嗆馬踹共」『自由時報』（2012年5月21日）頁5。
- 14 民主進歩党ホームページ「陳菊主席回應馬英九就職談話全文」（2012年5月20日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6126
- 15 台湾團結聯盟ホームページ「台聯發動罷免三部曲 憂心馬第二任推動統一 黃昆輝批馬否定台灣民主化的歷史及事實 回歸黨國架構」（2012年5月20日）http://www.tsu.org.tw/?post_type=news&p=801
- 16 「馬沒反省道歉在野三黨發動倒閣」『自由時報』（2012年5月21日）頁1。
- 17 「司徒文：美牛開放 TIFA 好談」『中国時報』（2012年5月30日）頁1。
- 18 「司徒文：開放美牛 就重啟 TIFA 談判」『聯合報』（2012年5月30日）頁11。
- 19 「美國：美牛，TIFA 唯一阻礙」『聯合報』（2012年6月1日）頁1。
- 20 「『不反美牛 綠委提歐盟模式』」『聯合報』（2012年6月1日）頁2。
- 21 「美牛表決關鍵時刻 美促 TIFA 復談」『聯合報』（2012年6月4日）頁1。
- 22 中国国民党ホームページ「黨團大會決議一致投票支持『食品衛生管理法部分條文修正草案』」（2012年6月7日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7139>
- 23 中国国民党「黨團大會馬主席致詞內容」（2012年6月7日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7140>
- 24 民主進歩党ホームページ「林俊憲：以國民健康為優先，以社會民意為依歸」（2012年6月7日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6142
- 25 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌拜會立院黨團，勉同志反應民意、為人民健康把關」（2012年6月8日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6144
- 26 「藍：不排除行政命令開放美牛」『聯合報』（2012年6月13日）頁11。

- 27 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨第十四屆第六十四次中常會新聞稿」(2012年6月13日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6150
- 28 中国国民党ホームページ「救災優先國民黨籲綠停止阻擋議事」(2012年6月13日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7160>
- 29 「美牛案受挫黨內：馬跛腳效應浮現」『自由時報』(2012年6月16日)頁2。
- 30 「綠營短線達陣 卻沒增加信任」『中国時報』(2012年6月16日)頁2。
- 31 「立院臨時會完成修法前 馬：不以行政命令開放美牛」『聯合報』(2012年6月18日)頁6。
- 32 「臨會7/24 啟動 美牛等三案 將攤牌」『自由時報』(2012年6月27日)頁4。
- 33 行政院長の補佐役として、行政院内の事務を統括する幕僚事務的な役職。日本の内閣官房長官に相当。林秘書長は、2012年1月の立法委員選挙で落選後、1月末の陳内閣成立の際に同秘書長に就任していた。
- 34 「林益世被爆索賄 馬促釐清」『聯合報』(2012年6月28日)頁1。
- 35 「林益世：廉潔我最重視」『聯合報』(2012年6月28日)頁1。
- 36 民主進歩党ホームページ「林益世說謊、馬英九包庇，林俊憲：籲特偵組加快偵辦腳步」(2012年6月28日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6163
- 37 「七度強調『沒收賄』」『聯合報』(2012年6月29日)頁1。
- 38 「府院畫線防火 林益世孤軍奮戰」『聯合報』(2012年6月29日)頁3。
- 39 「趙天麟：林指示陳付款 說3、3、23」『聯合報』(2012年6月30日)頁3。
- 40 「林益世喊話：讓我一刀畢命」『聯合報』(2012年6月30日)頁1。
- 41 「陳啟祥拘提到案 供詞不利林益世」『聯合報』(2012年7月1日)頁1。
- 42 「收賄案 特偵組南北大搜索」『中国時報』(2012年7月2日)頁1、「林益世到案 列偵字案被告」『自由時報』(2012年5月21日)頁1。
- 43 「承認收賄 林益世收押」『聯合報』(2012年7月3日)頁1。
- 44 「總統：用人可更謹慎小心」『聯合報』(2012年7月3日)頁2。
- 45 「陳揆人事權 馬該放手了」『聯合報』(2012年7月3日)頁2。
- 46 「藍委籲馬：用人圈子要擴大」『聯合報』(2012年7月3日)頁2。
- 47 民主進歩党ホームページ「籲總統徹查並道歉，林俊憲：馬團隊還有多少個林益世？」(2012年7月2日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6165
- 48 民主進歩党ホームページ「王閔生：籲馬總統徹查執政團隊，不應卸責」(2012年7月3日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6166
- 49 中国国民党ホームページ「考紀會議決議：林益世予以開除黨籍處分」(2012年7月3日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7205>
- 50 中国国民党ホームページ「馬主席：化危機為轉機 窮盡一切力量捍衛清廉價值」(2012年7月4日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=7210>
- 51 「林益世事件後馬總統滿意度民調」『TVBS』(2012年7月3日) http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201207/39g77tofel.pdf
- 52 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨第十四屆第六十五次中常會新聞稿」(2012年7月2日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6169
- 53 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌：鞏固民進黨形象，2014 打出漂亮一仗」(2012年7月4日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6170
- 54 總統府ホームページ「總統出席「廉政座談會」」(2012年7月7日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27656&rmid=514>
- 55 「重返執政 蘇貞昌：先贏2014 選舉」『自由時報』(2012年4月30日)頁4。
- 56 「新聞眼／五張老面孔 噴出舊口水」『聯合報』(2012年4月30日)頁2。
- 57 「二辦砲火『四』射延燒到會後」『自由時報』(2012年5月7日)頁5。
- 58 「黨魁之爭 圍剿蘇貞昌 四打一」『聯合報』(2012年5月13日)頁2。
- 59 「還是不表態 選2016？四人進逼蘇脫口：卡蘇打蘇圍毆」『聯合報』(2012年5月13日)頁2。
- 60 民主進歩党ホームページ「民主進歩黨第十四屆黨主席選舉結果新聞稿」(2012年5月27日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=6132
- 61 2008年と2010年に蔡英文が当選した時の投票率は51.14%と58%であった。民主進歩党ホームページ「第十二屆黨主席選舉結

- 果新聞稿」(2008年5月18日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=2655、民主進歩党ホームページ「第十三屆黨主席選舉結果新聞稿」(2010年5月23日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=4396 http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=4396
- ⁶² 民主進歩党ホームページ「蘇貞昌主席就職致詞全文」(2012年5月27日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?&sn=6133
- ⁶³ 「親蔡英文人馬拿下雙北 牽制蘇貞昌」『聯合報』(2012年5月28日) 頁3。
- ⁶⁴ 「再啟派系共治? 是否團結 視蘇是否分享權力」『聯合報』(2012年5月28日) 頁3。
- ⁶⁵ 總統府ホームページ「總統接見日本「日華議員懇談會」幹事長藤井孝男參議員一行」(2012年5月8日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27121&rmid=514>
- ⁶⁶ 總統府ホームページ「總統與日本國會議員慶賀團餐敘」(2012年5月20日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27205&rmid=514>
- ⁶⁷ 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「訪日日程を終えた王金平・立法院長ら一行が記者会見を開催」(2012年7月9日) <http://www.taiwanembassy.org/ct.asp?xItem=293809&ctNode=3522&mp=202>
- ⁶⁸ 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「馮寄台・駐日代表が離任、羽田空港で台日関係者らが見送り」(2012年5月29日) <http://www.roc-taiwan.org/JP/ct.asp?xItem=283279&ctNode=3522&mp=202&nowPage=1&page>
- ⁶⁹ 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「沈斯淳・駐日代表が着任」(2012年5月30日) <http://www.roc-taiwan.org/JP/ct.asp?xItem=283279&ctNode=3522&mp=202&nowPage=1&pagesize=30>
- ⁷⁰ 台北駐日經濟文化代表處ホームページ「沈斯淳・駐日代表が日本「交流協会」を表敬訪問」(2012年6月1日) <http://www.roc-taiwan.org/JP/ct.asp?xItem=284510&ctNode=3522&mp=202&nowPage=1&pagesize=30>
- ⁷¹ 「日駐台代表 樽井澄夫就任」『自由時報』(2012年5月11日) 頁6。
- ⁷² 總統府ホームページ「總統接見『日本交流協會臺北事務所』新任代表樽井澄夫」(2012年5月16日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27167&rmid=514&sd=2012/05/16&ed=2012/05/22>
- ⁷³ 總統府ホームページ「副總統接見『日本交流協會』臺北事務所新任代表樽井澄夫」(2012年5月17日) <http://www.president.gov.tw/Default.aspx?tabid=131&itemid=27180&rmid=514&sd=2012/05/16&ed=2012/05/18>
- ⁷⁴ 公益財団法人交流協会ホームページ「2011年度台湾における対日世論調査」(2012年6月22日) [http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/29A8A6F6BA532E3349257A2800136FD5/\\$FILE/2011tainichi-yoron-cyousal.pdf](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/04/29A8A6F6BA532E3349257A2800136FD5/$FILE/2011tainichi-yoron-cyousal.pdf)
- ⁷⁵ 「日本研究：台湾人哈日 但認為最該親近中國」『中国時報』(2012年6月16日) 頁4。